

【著書論文目録】(自昭和廿四年一月至同八月)

國史關係【著書】

- 古代國家—共同研究—津田左右吉外)  
 A5・二九七頁、啓示社、三六〇圓)  
 原始社會 ねず・まさし著(B6・二三  
 四頁、三笠書房、一六〇圓)  
 氏族社會—新日本歴史双書、古代(一)  
 —羽仁五郎著(B6・一一九頁、三一  
 書房、九〇圓)  
 日本古代漁業經濟史 羽原又吉著(A5  
 ・三三四頁、改造社、三二五圓)  
 日本古代社會 前島省三著(B6・二五  
 五頁、日本科學社、二〇〇圓)  
 上代の庶民生活 田名網宏著(B6・二  
 七一頁、雄山閣、二〇〇圓)  
 日本古代史の諸問題 井上光貞著(A5  
 ・三五八頁、思索社、四二〇圓)  
 日本民族社會史、第一卷村山節著(B6  
 ・二二四頁、高山書院、一八〇圓)  
 中世莊園の基礎構造 清水三男著(A5  
 ・三三八頁、高橋書院、三七〇圓)

- 鎌倉時代の庶民生活 村山修一著(B6  
 ・二〇〇頁、白井書房、一五〇圓)  
 日本佛教史中世編之二 辻善之助著(A  
 5・四四三頁、岩波書店、四五〇圓)  
 日本法制史要 石井良助著(A5・三三  
 七頁、弘文堂、三五〇圓)  
 日本に於ける農民戰爭 笠原一男著(B  
 6・二九五頁、國土社、二五〇圓)  
 日本法制史(一)(江戸時代まで) 高柳  
 眞三著(B6・三八三頁、有斐閣、三  
 三〇圓)  
 中世文化研究 藤直幹著(A5・二五四  
 頁、河原書店、二五〇圓)  
 かぶきの成立 林屋辰三郎著(B6・一  
 五三頁、推古書院、一三〇圓)  
 歌舞伎—本質と鑑賞—石田一良著(B6  
 ・一九〇頁、推古書院、一八〇圓)  
 日本における近代思想の前提 羽仁五郎  
 著(A5・二〇八頁、岩波書店、一九  
 〇圓)  
 近世日本における批判的精神の一考察—  
 佛教の新考察—Ⅱ—中村元著(B6・  
 三七〇頁、三省堂、二八〇圓)

- 日本思想史研究第四 村岡典嗣著(A5  
 ・三四四頁、岩波書店、三六〇圓)  
 日本人の科學思想の發展 吉岡修一郎著  
 (B6・一九一頁、彰考書院、一三〇  
 圓)  
 西洋人の見た日本史 牧健二著(B6・  
 三四四頁、弘文堂、二七〇圓)  
 日蘭貿易史 杉澤武雄著(B6・一四六  
 頁、平凡社、一三〇圓)  
 日本資本主義社會形成史 淺田光輝・中  
 村秀一郎共著(A5・三一七頁、岩崎  
 書店、二七〇圓)  
 日本における産業資本の形成 楳西光連  
 著(B6・二八〇頁、御茶の水書房、二  
 〇〇圓)  
 明治維新史研究の發展 入交好脩著(B  
 6・一九九頁、同文館、一八〇圓)  
 日本農民經濟史研究 入交好脩著(A5  
 ・四五六頁、鎌倉文庫、三八〇圓)  
 近世日本封建社會の史的分析 土屋喬雄  
 著(A5・四〇〇頁、御茶の水書房、  
 四〇〇圓)  
 村明細帳の研究 野村兼太郎著(A5・

一一二頁、有斐閣、一〇〇〇圓)  
 マニユクテニア論 信夫清三郎著 (A  
 A5判・一八九頁、河出書房、二〇〇  
 圓)  
 近世日本農功傳 松厚晃著 (B6・二八  
 八頁、濕仙書房、一八〇圓)  
 百姓町人の歴史 本庄榮治郎著 (B6・  
 二五八頁、培風館、一八〇圓)  
 日本産業の構成 小林良正著 (A5・三  
 〇一頁、白揚社、三三〇圓)  
 日本資本主義と財政 (上) 藤田武夫著  
 (A5・二八五頁、實業之日本社、三  
 二〇圓)  
 日本農業の發展構造 栗原百壽著 (A5  
 ・二五四頁、日本評論社、二五〇圓)  
 國有鐵道の史的考察 大島清著 (A5・  
 二四二頁、伊藤書店、二三〇圓)  
 都市下層社會―明治前期勞働事情―西田  
 長壽編 (A5・二七七頁、生活社、二  
 三〇圓)  
 日本の下層社會 横山源之助著 (岩波文  
 庫・三四八頁、一三〇圓)  
 近代日の本なりたち 服部之總著 (B6

・一六七頁、日本評論社、一二〇圓)  
 幕末の外交 石井孝著―新日本歴史双書  
 近世― (B6・二四四頁、三一書房  
 一七〇圓)  
 續日本の財閥 土屋喬雄著 (アテネ文庫  
 ・六一頁、弘文堂、三〇圓)  
 中江兆民 小島祐馬著 (アテネ文庫・六  
 二頁、弘文堂、三〇圓)  
 封建文化と近代文化 長谷川如是閑著 (ア  
 テネ文庫・六三頁、三〇圓)  
 日本フアシズム史上 木下半治著 (B6  
 ・二五〇頁、岩崎書店、二〇〇圓)  
 日本フアシズムの源流―北一輝の思想と  
 生涯― 田中惣五郎著 (A5・四一八  
 頁、白揚社、三八〇圓)  
 日本資本主義發達史 守屋典郎著 (B6  
 ・一七〇頁、ナウカ社、一三〇圓)  
 日本紡績史 飯島幡司著 (A5・六一〇  
 頁、創元社、五八〇圓)  
 日本社會の基本問題 日本太平洋問題調  
 査會編 (A5・三六六頁、世界評論社  
 三五〇圓)  
 日本漁業經濟發達史序説 清水弘・小沼

勇共著 (A5・三二〇頁、潮流社、三  
 六〇圓)  
 同時代史第一卷、三宅雪嶺著 (A5・五  
 七五頁、岩波書店、八〇〇圓)  
 村及び入會の研究 中田蕪著 (A5・三  
 三一頁、岩波書店、四〇〇圓)  
 日本農村の社會的性格 福武直著 (A5  
 ・二九八頁、東大協同組合出版部、二  
 九〇圓)  
 日本農業技術史 (下) 古島敏雄著 (B  
 5・七三一頁、時流社、四〇〇圓)  
 日本家族制度の批判―半封建的家族制度  
 の本質― 玉城肇著 (A5・二二〇頁  
 民女社、二〇〇圓)  
 農業戰略戰術問題 野呂郎太郎著 (A5  
 ・二〇九頁、三一書房、二五〇圓)  
 「アテ帝國主義」論批判 野呂榮太郎著  
 (A5・二二七頁、三一書房、二五〇  
 圓)  
 日本農民組合運動史 黒田壽男・池田恒  
 雄共著 (B6・三三二頁、新地書房、  
 二二〇圓)  
 足利尊氏 山路愛山著 (岩波文庫、二七

- 三頁、一一〇圓)  
 年中行事 柳田國男著 (B6・七一頁、日東出版社、三五圓)  
 まつりと行事 橋浦泰雄著 (B6・三七四頁、毎日新聞社、一五〇圓)  
 諏訪の年中行事 諏訪教育會著 (B6・一六一頁、蓼科書房、七〇圓)  
 海村生活の研究 柳田國男編 (A5・四八頁、日本民俗學會、四五〇圓)  
 日本歳事全史 江馬務著 (B6・二九六頁、臼井書房、四五〇圓)  
 柳田國男先生著作集第八冊、退讀書歴 (B6、實業之日本社、二七〇圓)  
 明治佛敎史の問題 辻善之助著 (B6・三八〇頁、立大書院、二六〇圓)  
 日本佛敎の創建者 三枝博晉外 (B6・二七八頁、大雅堂、一八〇圓)  
 親鸞ノート 服部之總著 (B6・二二三頁、國士社、一七〇圓)  
 聖フランシスコ・デ・サビエル書翰抄 アルベ神父・井上郁二譯 (岩波文庫上卷、三六一頁、一四〇圓、下卷、二九二頁、一一〇圓)

- 東洋人の思维方法第二部日本人・チベツト人の思维方法 中村元著 (A5・五二六頁、みすず書房、七〇〇圓)  
 九州三侯遣歐使節行記續編 ベルナル・ピント、岡本良知編譯 (A5・二六六頁、東洋堂、五〇〇圓)  
 日本美術史、上代篇 上野直昭著 (A5・二三五頁、河出書房、五五〇圓)  
 日本彫刻史の研究 金森逸著 (A5・二九六頁、河原書店、三二〇圓)  
 日本美術史、上古・上代・中世編 久野健綱 (B6・二二〇頁、座右寶刊行會、三〇〇圓)  
 世界の歴史―日本― 石母田・遠山・高橋共著 (B6・三五二頁、毎日新聞社、二二〇圓)  
 世界の歴史―歴史のあけぼの― 江上・板倉・杉浦共著 (B6・三七二頁、毎日新聞社、二二〇圓)  
 日本社會の史的究明 歴史學研究會編 (B6・三四〇頁、岩波書店三〇〇圓)  
 日本史研究入門 東大協同組合出版部編 (B6・三五〇頁、東大協同組合出版

- 部、二五〇圓)  
 日本女性史 井上清著 (B6・三五六頁、三一書房、二五〇圓)  
 國史學 中村孝也著 (B6・三五八頁、廣文社、二五〇圓)  
 日本文化小論 辻善之助著 (B6・二四六頁、中央公論社、一八〇圓)  
 日本文化史 二―平安時代― 辻善之助著 (A5・二五七頁、春秋社、二八〇圓)  
 日本文化史 三―鎌倉時代― 辻善之助著 (A5・二八四頁、春秋社、三〇〇圓)  
 日本史の基本的展開―社會主義講座座第十卷― 下村富士男著 (A5・二五四頁、三元社、二五〇圓)
- 【雜誌論文】  
 岩手史學研究一ノ二 (昭和廿四、二)  
 南部藩近江商人の研究 森 嘉兵衛  
 北條米寮とその學風 太田幸太郎  
 中國史書に於ける蝦夷關係史料について 藤澤 義美  
 貞任以後安倍氏一族の研究 (上)  
 金子 定一

オリエンタリカ二號(昭和廿四・三)

卑彌呼問題の解釋(下) 白鳥 庫吉

改造 三〇ノ四(昭和廿四・四)

歴史過程における思想と暴力

長谷川如是閑

科學史研究 一〇(昭和廿四・四)

「二儀略説」の研究

本多利明と常陸遊覽不問物語

藤原松三郎

科學史の材料としての談林派俳諧

大矢 眞一

同 一一(昭和廿四・七)

遠藤利貞著「増修日本數學史」の補正

三上 義夫

余の和算史研究

藤原松三郎

元祿時代技術史資料(一) 前田金五郎

經營と經濟 二九ノ一(五二號)(昭和廿四・六)

明治憲法史の一斷面(四) 西口 昭男

經濟學 第一集(昭和廿四・四)

明治維新の主體性 奈良本辰也外

經濟評論 一月號(昭和廿四・一)

「マニユ」論争によせて 松本 達郎

同 二月號(昭和廿四・二)

軍事工業と日本資本主義(一)

日本帝國主義擴張過程の研究

小山 弘藏

資本主義の形成と國家の役割

堀江英一氏「本源的蓄積における

國家權力の問題」ト 大島 清

同 三月號(昭和廿四・三)

軍事工業と日本資本主義(二)

小山 弘藏

同 六月號(昭和廿四・六)

原始蓄積の類型 大島清氏「資本主

義の形成と國家の役割」への答辯

堀江 英一

經濟論叢 六三ノ三・四合併號(昭和廿四

・四)

上代社會の封建制

堀江 保藏

史淵 第四〇輯(昭和廿四・三)

樂浪文化と日本の黎明

日本上代史の再検討 重松 俊章

佛舍利相承系圖と日宋交通との連關

森 克己

不盡言と徂徠派

西尾陽太郎

福岡藩政史の研究

天保の改革(一) 椋垣 元吉

史學 二四ノ一(昭和廿四・六) 特輯ザビ

エル研究

鹿兒島のベルナルド・ニエレンベルグ

(岩谷十二郎譯)

十七世紀に於ける日本司教增置問題

岡本 良知

ザヴィエル關係の日本史料

海老澤有道

海外の史料に表はれたる福島正則

II・チースリク

ヴァニリヤニのシャビエル探究

吉田小五郎

聖フランシスコ・ザビエルの列聖文書

桶口 勝彦譯

史學雜誌 五七ノ五・六合併(昭和廿四・

五)

新羅三代考

末松 保和

新補地頭に關する一考察 安田 元久

中世の信濃 新城 常三

同 五八ノ一(昭和廿四・六)

中世莊園に於ける上代的遺制

竹内 理三

同 五八ノ二(昭和廿四・七)

家人の系譜

坂本 太郎

封建制の成立に關する諸問題(學界動

豊田 武

同)

五八ノ三(昭和廿四・八)

莊園前村落の構造について 奥田眞啓

日本絶対主義成立期の問題(學界動向)

遠山 茂樹

史迹と美術 一九二(昭和廿四・一)

正倉院建築論考

藤澤 一夫

廣隆寺講堂に就いて(上) 向井 芳彦

キキミミのある寶券

中村 直勝

同) 一九三(昭和廿四・三)

長講堂後白河法皇御坐像について

毛利 久

廣隆寺講堂について(下) 向井 芳彦

播州美養郡東光寺

武藤 誠

同) 東光寺本堂及び多寶塔

一四四(昭和廿四・五)

薬師寺の占地に就いて

田村 青永

同) 京都廢常住寺小考

一四五(昭和廿四・七)

唐招提寺私考(上)

毛利 久

春日本地佛の造像について 景山耕四郎

相模圓覺寺明應四年鐘に就て

赤星 直忠

思想 二九五(昭和廿四・一)

敗戦後の歴史學における一傾向

一藤間・石母田氏のしごとについて

神道批判 鈴木 良一

同) 二九六(昭和廿四・二)

民族問題の理論的基礎 平野義太郎

同) 二九八(昭和廿四・四)

板垣退助 服部 之總

同) 三〇〇(昭和廿四・六)

板垣退助(續) 服部 之總

同) 三〇二(昭和廿四・八) 特輯 封建性とは何か

封建制成立の特質について 石母田正

日本古代における封建化の前提

近世封建制の性格 松本新八郎

封建的契約とその解體(上) 中村 吉治

近世農村の大家族制度 兒玉 幸多

社會科學 二(昭和廿四・四)

徳川期純粹封建的土地所有について

近世小作農の創出過程 藤田 五郎

アジヤ的生産様式と日本古代史學 庄司吉之助

前島 省三

社會經濟史學 一五ノ二(昭和廿四・五)

奈良時代の戸籍と計帳 有賀喜左衛門

本邦古代小豆考 鐸方 貞亮

出羽國檢地帳の研究 長井政太郎

明治維新前北海道に於ける日本資本主義の先進性 白井 友正

正空賣買問書・米商秘説 寺田 成友

維新直後の地方行政 關島 久雄

ケンベルの日本歴史觀 牧 健二

社會構成史體系 第一回(昭和廿四・四)

政治的社會の成立 藤間 正大

純粹封建制成立における農民階級

鈴木 良一

同) 第二回(昭和廿四・七)

明治維新における指導と同盟 服部 之總

神道史學 第一輯(昭和廿四・六)

内侍所神鏡考 宮地 直一

銅鑼私考 大場 磐雄

神道宗門に就いて 西田 長男

三枝祭について 宮地 治郎

新日本史講座 第五回(昭和廿四・六)

日本民族の成立 長谷部言人

- 異民族征服 田名綱 宏  
 封建時代後期總説 中村 吉治  
 開港 中村英勝、石井孝  
 資本主義時代の宗教 圭室 諦成  
 同 第六回(昭和廿四・八)  
 隣邦史書に現われた日本 桃 裕行  
 古代後期總説 西岡虎之助  
 貴族論 家永 三郎  
 封建時代前期の文化 笠原 一男  
 封建制遺制の分析 有賀喜左衛門  
 人文 三ノ一(昭和廿四・三)  
 西歐科學受容の仕方について 下村寅太郎  
 民間信仰と日本文化 堀 一郎  
 最近における日本古代史の動向 まつしま・えいいち  
 世界 三八(昭和廿四・二)  
 説得か暴力か E・H・ノーマン  
 | 現代社會における言論の自由 |  
 知性 二ノ六(昭和廿四・六) 遠山 茂樹  
 天皇制軍隊の成立 中央公論 六四ノ一(昭和廿四・一)  
 思想史問答 阿部 次郎

- 潮流 四ノ二(昭和廿四・二)  
 フアッシュズムへ移行する既成政黨 中村 哲  
 同 四ノ五(昭和廿四・五)  
 制據に悩む政治機構 辻 清明  
 軍國支配者の精神形態 丸山 眞男  
 既成政黨の自棄過程 中村 哲  
 哲學研究 三三ノ三(昭和廿四・七)  
 中江藤樹の哲學 下程 勇吉  
 展望 三七(昭和廿四・一)  
 近代日本思想史における國家理性の問  
 題(一) 丸山 眞男  
 同 三九(昭和廿四・三)  
 津田史學とランケ(歴史家について) 石母田 正  
 同 四一(和廿四・五)  
 倭寇 和辻 哲郎  
 同 四三(昭和廿四・七)  
 日本におけるシヤビエル 和辻 哲郎  
 同 四四(昭和廿四・八)  
 土一揆 和辻 哲郎  
 長崎談叢 三五(昭和廿四・八)  
 長崎におけるキリシタン研究 馬場誠

- 道富丈吉の百二十五周年を迎へて 津田 繁  
 日本史研究 一〇(昭和廿四・六)  
 近世封建社會に於ける農民分化 堀江 英一  
 宇和島藩に於ける近世經濟の展開過程 岩井 忠熊  
 鎌倉時代に於ける稻の研究 新城常三  
 本邦大豆栽培の起源 鑄方 貞亮  
 江戸時代に於ける利根川の治水 河野 通博  
 近世日本農業史第二講 三橋 時雄  
 日本帝國主義講座 第一回(昭和廿四・四)  
 帝國主義段階における國家資本の役割  
 と推移(上) 鈴木 武雄  
 勞働運動・無産政黨史(上) 關根悅郎  
 農業危機の成立と發展(上) 栗原百壽  
 | 日露戦争から昭和の大恐慌前まで |  
 同 第二回(昭和廿四・六)  
 帝國主義日本政治史(上) 服部 之總  
 | 護憲運動からフアッシュズムへ |  
 日本帝國主義の國際環境(上)

- 江口 朴郎  
 勞働運動・無産政黨史(下) 關根悦郎  
 帝國主義の展開過程における食糧問題  
 の性格と地位 石渡 貞雄  
 日本文學 一(昭和廿四・七) 特輯日本  
 文學史の諸問題  
 萬葉論 北山 茂夫  
 竹取物語の文學史的位置 西郷 信綱  
 院政期文學の特性 佐山 濟  
 能と狂言 戸井田道三  
 町人文學における上方と江戸  
 まつしま・えいいち  
 猪野 謙二  
 透谷から藤村へ  
 日本歴史 一四(昭廿四・三)  
 明治初年に於ける進化論展開の側面  
 福田 芳郎  
 天動説から地動説へ 杉本 勳  
 わが國に於ける化學認識の成立につい  
 て 田中 貢  
 蘭學から英學へ(上) 沼田 次郎  
 同 一五(昭和廿四・四)  
 明治元年の東北・北陸戦争と庶民  
 小西 四郎

- 明治の學校と江戸時代の學校  
 大久保利謙  
 中世の水運(上) 豊田 武  
 蘭學から英學へ(下) 沼田 次郎  
 高山右近 岡田 章雄  
 同 一六(昭和廿四・五)  
 上宮聖德法王帝説の成立年代  
 家永 三郎  
 明治の外人教師と地震學 渡邊 實  
 中世の水運(下) 豊田 武  
 同 一七(廿四・六)  
 日本史上における中世と近世  
 石井 孝  
 中世社會に於ける黨の問題 安田元久  
 古典的國家觀の完成 梅澤伊勢三  
 川柳にあらはれた江戸時代庶民意識  
 (上) 家永 三郎  
 同 一八(昭和廿四・八)  
 國家成立過程における神社の意義  
 高柳 光壽  
 末期日唐貿易と中世的貿易の萌芽  
 森 克巳  
 五山禪林に於ける朋黨的弊害

- 日蓮における歴史的實證の精神 玉村 竹二  
 川柳にあらはれた江戸時代庶民意識  
 (下) 家永 三郎  
 人間 四ノ五(昭和廿四・五)  
 透谷に於ける近代市民精神 家永三郎  
 ビブリア 一(昭和廿四・一)  
 横井也有的著作について 栗田 元次  
 饅頭屋林宗二に就いて 川瀬 一馬  
 アメリカ彦蔵「ナレティブ」諸本を  
 繞つて 富永 牧太  
 表現 二ノ二(昭和廿四・二)  
 日本思想史の課題と方法 家永 三郎  
 同 二ノ三・四・五(昭和廿四・三・  
 四・五)  
 歴史上の必然と偶然 つた・さうきち  
 文學 一七ノ一(昭和廿四・一)  
 近世町人文學のリアリズム 荒木 繁  
 能樂のリアリズム 戸井田道三  
 同 一七ノ四(昭和廿四・四)  
 能・狂言―その社會學的研究の分野―  
 島崎 稔

歌舞伎の社會的性格

井上 清

北村透谷

ナカニシ・ヒロシ

同 一七ノ五(昭和廿四・五)

文藝における中世的様式形成の地盤

西尾 實

町人と町人文化 まつしま・えいいち

西鶴論の問題 小原 元

階級文學としての川柳概観 倉本初夫

戯作文學の傳統 小田切秀雄

若菜集の成立―明治精神史の一問題― 色川 大吉

同 一七ノ八(昭和廿四・八)

貧窮問答歌の成立 北山 茂夫

―奈良朝初期の農民闘争との聯關―

宮延女流文學の問題(一) 西郷 信綱

末摘花のひめぢみ 武者小路稔

―藤原時代の女流文學の基盤―

平安朝宮延文學の背景 佐藤 謙三

三田學會雜誌 四二ノ三(昭廿四・三)

江戸時代における人口調査 野村兼太郎

わが國に於ける資本主義の發達と鐵道

増井 健一

同 四二ノ四(昭和廿四・六)

舊幕期の水産献上品と維新後の推移

羽原 又吉

會津藩の漆生産について 松尾 謙介

民間傳承 一三ノ一(昭和廿四・一)

農村經濟と民俗學 千葉 徳爾

同 一三ノ二(昭和廿四・二)

民俗學と法社會學 川島 武宜

同 一三ノ三(昭和廿四・三)

田の神の祭り方(上) 柳田 國男

同 死なない靈魂 棚瀬 襄爾

同 田の神の祭り方(中) 柳田 國男

民俗學の方法について 和歌森太郎

同 田の神の祭り方(下) 柳田 國男

同 月の八日 丸山 學

同 籠獄の坊と宮座 和歌森太郎

同 生活における年齢の表現 肥後 和男

同 田植組と田植方式 石塚 尊俊

―中國地方の大田植に於ける―

民俗學方法の問題(上) 關 敬吾

―和歌森氏の所論に關聯して―

同 寶島の親方取り 櫻田 勝徳

同 あまの浦 瀬川 清

御前崎の漁祝と勞働組織 竹内利美

民俗學方法の問題(下) 關 敬吾

同 水神信仰と河童 竹田 且

同 筑波の神まつりと信仰 荒川 潤

同 民族學研究 一三ノ三(昭和廿四・二)

同 日本民族文化の漂流と日本國家の形成 岡・八幡・江上

同 沖繩の婚姻 瀬川 清子

同 文化史的民族學成立の基本問題 石田英一郎

同 千歳アイヌの祖印 名取 武光

同 アイヌ文身文様の構成 土佐林義雄

同 歴史學 一(昭和廿四・八)

同 平安初期に於ける政治思想 角田文衛

―藤原國人の政績と其の政道觀―

同 伊藤仁齋 石田 一良

同 八朔習俗 平山敏治郎



西本願寺大師堂の模造とその筆者

土居 次義

歴史學研究 一三七(昭和廿四・一)

ふたつの愛國主義と國際主義 井上清

——幕末明治外交の基本問題——

土一揆(研究手引) 稻垣 泰彦

同 一三八(昭和廿四・三)

中世土家の土地所有形態に關する一資料——嘉曆二年近衛家領革島南庄圖に

ついて—— 杉山 博外

同 一三九(昭和廿四・五)

民主主義の歴史的發展 市川 米彦

——教科書「民主主義」上の批判——

同 一四〇(昭和廿四・七)

日本における農奴制の形成過程

永原 慶二

西洋史關係【著書】

西洋の起原(京大西洋史1) 井上・村田・

吉原著(A5・八六頁、創元社、七〇

圓)

西洋古典世界(同2) 村田・吉原著(A5

・一五一頁、創元社、一一〇圓)

西洋中世の世界(同3) 兼岩正夫著(A5

・一一〇頁、創元社、八五圓)

近代世界の胎動(同4) 會田雄次著A5

九六頁、創元社、九五圓)

世界の歴史Ⅱ西洋の部(村川・大野・松

田・堀米著) B6・三四三頁、毎日新

聞社、二二〇圓)

世界歴史五・六・七・八(民主評論社編

民主評論社、一五〇圓)

世界史西洋史編、板倉勝正著(A・二

五〇頁、中等學校教科書株式會社、二

三〇圓)

西洋古典論集 西洋古典學會編(A5・

二八九頁、創元社、二七〇圓)

楔形文字法の研究 原田慶吉著(A5・

四〇二頁、弘文堂、五五〇圓)

エーグ文明の研究 村田敷之亮著(A5

・三〇四頁、弘文堂、三三〇圓)

ギリシア研究入門 村川堅太郎編(A5

・四八一頁、北隆館、五五〇圓)

ギリシア文化史第三卷 ブルックハルト

著新關譯(B6・四四二頁、東京堂、

二九〇圓)

ギリシア文化史第四卷 ブルックハルト

著新關譯(B6・四八五頁、東京堂、

三五〇圓)

ギリシア神話 アボドロス著高津譯(生

活社、二二〇圓)

雲 アリストブハネス著高津譯(B6・

二五四頁、生活社、一八〇圓)

蛙 アリストブハネス著高津譯(B6・

生活社、二二〇圓)

エウリピデスの悲劇 エウリピデス著田

中・内山共譯

プラトン全集第九卷 岡田正三譯(B6

・三五〇頁、全國書房、二三〇圓)

羅馬大土地所有制 社會構成史大系第二

卷中 村川堅太郎著(A5・一五六頁

日本評論社)

獨逸中世の社會と經濟 上原專祿著(A

5・弘文堂)

ヨーロッパ社會の誕生 増田四郎著(A

5・二六三頁、啓示社、三三〇圓)

西歐市民意識の形成 増田四郎著(A5

・二二四頁、春秋社、二五〇圓)

封建的土地所有の成立過程(社會構成史

大系第三卷中) 田中正義著 (A5・1  
三〇頁、日本評論社)  
中世國家の構造 (社會構成史大系第四卷  
中) 堀米唐三著 (A5・1一六頁、日  
本評論社)

改訂イギリス封建社會經濟史 矢口孝次  
郎著 (A5・二九六頁、日本評論社、  
三〇〇圓)

ルネッサンスの研究 大類、長監修 (A  
5・一九二頁、正統社、二〇〇圓)

カルヴィニズム ミーター著原譯 (B6  
・三二〇頁、新教出版社、二〇〇圓)  
近世ヨーロッパの誕生 山上正太郎著  
(B6・大地書房、一九〇圓)

近代精神 小場瀨卓三著 (世界評論社)  
マニユアクチュア論 信夫清三郎著  
(A5・一八九頁、河出書房、二〇〇圓)

フランス革命史 本田喜代治著 (B6・  
三三〇頁、小石川書房、二五〇圓)

フランス革命とドイツ思想 十河佑貞著  
(A5・二八四頁、白水社二八〇圓)

増補絶対主義論、服部之總著 (B6・二  
八八頁、東大共同組合出版部、一八〇

著書論 文目録

圓)

近代經濟思潮概観 小泉信三著 (A5・  
二一七頁、好學社、二四〇圓)

ヨーロッパのニヒリズム レヴィット著  
柴田譯 (B6・二四八頁、筑摩書房、  
一六〇圓)

民主主義革命 鈴木正四著 (岩波書店)  
宗教と科學の闘争史 (上) ドレイバー著  
平田譯 (B6・二三八頁、創元社、  
一九〇圓)

宗教と科學の闘争史 (下) ドレイバー著  
平田譯 (B6・二七〇頁、創元社、一  
七〇圓)

世界史の成立 西井克己著 (B6・二八  
五頁、北隆館、一八〇圓)

人民民主主義の世界的發展 平野義太郎  
著 (B6・二二二圓、三一書房、一五  
〇圓)

ヨーロッパ帝國主義の成立 小此木眞三  
郎著 (B6・二二〇頁、三一書房、一  
四〇圓)

ドイツ社會政策論史 (上) 服部英太郎著  
(A5・四三一頁、日本評論社、三八

〇圓)

ラテンアメリカ史概説 (上) 田中耕太郎  
著 (A5・三五八頁、岩波書店、四八  
〇圓)

共和國 (上) ビアード著松本譯 (A5・  
社會思想研究會出版部、四八〇圓)

アメリカ史 (上) モーロー著鈴木譯  
(B6・三九九頁、近代文化社三五〇圓)

アメリカ史 (下) モーロー著鈴木譯  
(B6・三七二頁、近代文化社、三五〇  
圓)

T・V・Aリ エンソール著和田譯 (A  
5・三五三頁、岩波書店、四三〇圓)

アメリカ合衆國史 (上) ビアード夫妻共  
著岸村譯 (A5・三六四頁、岩波書店  
五〇〇圓)

アメリカ技術史 菅井・田代著 (B6・  
二五二頁、天然社、一六〇圓)

近代米國社會思想史 細入藤太郎著 (A  
5・四三〇頁、中文館書店五六〇圓)

マッシュル・プラン 島田巖著 (A5・  
三二二頁、朝日新聞社、二八〇圓)

アメリカ經濟史研究序説 鈴木圭介著 (

著書論文目録

1111

- A5・四一頁、日本評論社一五〇〇圓)  
 アメリカ經濟學研究 高垣寅次郎著 (A  
 5・二六五頁、有斐閣、二六〇圓)  
 虚榮なき獨裁者(上) シニュー著直井譯  
 (B6・三六五頁、日南書局、二八〇  
 圓)  
 虚榮なき獨裁者(下) シニュー著直井譯  
 (B6・三九一頁、日南書局、二八〇  
 圓)  
 ロシアとヨーロッパ 鳥山成人著 (B6  
 ・二〇〇頁、白日書院、一四〇圓)  
 ロシア社會思想史 及川朝雄著 (B6 二  
 五〇頁、岩崎書店、二〇〇圓)  
 ロシア思想史論 田中忠雄著 (B6・三二  
 〇頁、丁子屋書店、二三〇圓)  
 プロレタリア大革命(上) 勝部元著 (B  
 6・三〇〇頁、白日新社、二〇〇圓)  
 ソリエト同盟概観 舊東亞研究所譯 (A  
 5・三二四頁、解放社、三〇〇圓)  
 第二次世界大戰回顧録(一) チャーチル  
 著毎日新聞編輯委員會譯 (B6・三一  
 五頁、毎日新聞社、三五〇圓)  
 回想録 ハル著朝日新聞社譯 (B6・三

- 二〇頁、朝日新聞社、二〇〇圓)  
 滯日十年(上) グルー著石川譯 (B6  
 三七〇頁、毎日新聞社、二〇〇圓)  
 滯日十日(下) グルー著石川譯 (B6  
 三四四頁、毎日新聞社、二〇〇)  
 國際關係の史的分析 高橋・林・江口著 (A  
 5・三四〇頁、お茶の水書房三三〇圓)  
 アメリカ思想史論 田中忠雄著 (B6  
 二六六頁、丁子屋書店、二三〇圓)  
 コミンテルンの歴史 山邊健太郎著 (B  
 6・三六六頁、新興出版社二五〇圓)  
 革命史講座 鈴木・本田・井上著 (B6  
 ・一三四頁、ナウカ社、九〇圓)  
 フランス革命史 ねす・まさし著 (B6  
 ・一一〇頁、ナウカ社、九〇圓)  
 ロシア十月革命 ノムラ・シゲオ著 (B  
 6・一二六頁、晴明社、八〇圓)  
 大英帝國の變貌(經濟學全集第四回中)  
 嶺山芳郎著 (A5・一四三頁潮流社)  
 ドイツ産業資本の形成と保護主義經濟理  
 論(經濟學全集第七回中) 松田智雄著  
 (B5・六六頁、潮流社)  
 技術論、技術史 岡・加茂・菅井著 A5

- ・二六三頁、三元社、二五〇圓)  
 共產主義 田中重之著 (B6・四〇八頁  
 ダイヤモンド社、二五〇圓)  
 共產主義・ファシズム・民主主義 ハイ  
 マン著土屋清・土屋弘共譯 (A5・三  
 〇四頁、社會思想研究會出版部、三三  
 〇圓)  
 資本制生産に先行する諸形態 マルクス  
 著飯田譯 (B6・二三八頁、岩波書店  
 一八〇圓)  
 資本論第三部第一分冊 マルクス著長谷  
 部譯 (B6・三二三頁日本評論社、二  
 三〇圓)  
 資本論第三部第二分冊 マルクス著長谷  
 部譯 (B6・二八一頁、日本評論社、  
 二八〇圓)  
 社會史的思想史 三木・林・羽仁・本多  
 著 (A5・三五四頁、岩波書店、二七  
 〇圓)  
 人間精神進歩の歴史 コンドルセー著前  
 川譯 (B6・三六一頁、創元社、二五  
 〇圓)  
 キリスト教思想史 石原謙著 (B6)

時代區分の成立根據 大島康正著 (A5)

・二七七頁、筑摩書房、二九〇圓)

世界史的考察 ブルックハルト著標譯)

A5・(筑摩書房)

世界の運命と國家の運命 鈴木成高著)

B6・三五二頁、弘文堂、二八〇圓)

「ロマ書講解に表はれたる」ルッターの

根本思想 佐藤繁彦著 (A5・三九一

頁、創元社、五二〇圓)

マックス・ウェーバーとカール・マルク

ス レザヴィット著柴田・胸・安藤譯)

弘文堂)

社會經濟史學の根本問題 豊田四郎著

共產主義の系譜 猪木正道著 (B6・三

〇三頁、みすず書房、二〇〇圓)

人民民主主義の成立と發展 世界經濟研

究所編 (B6・三二六頁、世界評論社

二六〇圓)

歴史哲學 細谷貞雄著 (B6・二五一頁

春秋社、一六〇圓)

西歐美術圖譜 井島・上野・菊池編 (A

5・二八二頁、弘文堂、七〇〇圓)

東歐諸國(經濟學全集第三回中) 西澤富

夫著 (A5・一四四頁潮流社)

民主主義革命の理論 信夫清三郎著 (B

6・二〇五頁唯物論研究所一三〇圓)

史的唯物論 古在由重著 (B6・二四一

頁、ナウカ社、一五〇圓)

社會思想史 住谷悅治著 (B6・二五八

頁、京都印書館、二〇〇圓)

フアンズム(岩波新書) 具島兼三郎著)

文庫版、一五〇頁、岩波書店八五圓)

都市(岩波新書) 羽仁五郎著(文庫版、

二七〇頁、岩波書店、一四〇圓)

コンドルセ(岩波新書) 渡邊誠著(文庫

版、一九一頁、岩波書店、九五圓)

解放思想史の人々(岩波新書) 大塚金之

助著(文庫版、二二〇頁、岩波書店、

一一〇圓)

世界の歩み(上)(岩波新書) 林健太著

(文庫版、一六〇頁、岩波書店、八〇

圓)

オランダ獨立史(上)(岩波文庫) シラ

1 著丸山譯(文庫版、二二三頁、岩波

書店、一一〇圓)

革命議會における教育計畫(岩波文庫)

コンドルセ著渡邊譯(文庫版、一四七

頁、岩波書店、五五圓)

アテナイ人の生活(アテナ文庫) 高津春

繁著(文庫版、六一頁、弘文堂、三〇

圓)

獨逸デモクラシーの悲劇(アテナ文庫)

岡義武著(文庫版六〇頁、弘文堂、三

〇圓)

英國労働黨(アテナ文庫) 木村健康著)

文庫版、弘文堂、三〇圓)

古代フランス土地制度論(上)(世界古

典文庫) クーランジュ著明比譯(文庫

版、二三七頁、日本評論社、七〇圓)

古代フランス土地制度論(下)(世界古

典文庫) クーランジュ著明比譯(文庫

版、二三八頁、日本評論社、九五圓)

### 【雜誌論 文】

歴史學研究 第一三七號

「グーツヘルシャフト」の成立

第一三八號

柴山三千雄

ホップスがいしやくの一系列I—を

の政治的立場にかんする諸見解について  
水田 洋

第一四〇號

Colonus Romanorum (ローマ人達

のコロヌス制度) — 草稿 — 宅尾野久

第一四一號

ホップスカいしやくの一系列と

水田 洋

史淵 第四十編

ヴァンドオム廣場事件の考察

長 壽吉

エルヴェシニエスの天才論に於ける矛盾

小林榮三郎

第四十一編

ジョン・ロックとアメリカ革命

服部 哲郎

史學雜誌 第五十八編第一號

プロイセン改革の理念(上) 林健太郎

同 第二號

プロイセン改革の理念(下) 林健太郎

同 第三號

スバルタ型國家の農業生産者

村川堅太郎

第五十八編第四號

カロリング朝初期における從士制の問題

椋川 一朗

— 封建制成立に關する — 考察 —

史學研究 一

Agora 的社會と Acropolis 的社會

高山 一十

メロヴィンガ國家と庄園 舟越 康壽

人文 第三卷第一號

モスクワ・ウラヂミール地方に於る織物工業

山崎 隆三

トビーアードイ傳説批判 井上 一

一八六一年のロシア農奴解放令における土地分與規定

増田 富壽

史學 第二十四卷第一號

聯フランシスコ・ザビエルの列聖文書

樋口勝彦講

第二號

一七八九年の革命 ルフェーヴル

解説、紹介 鈴木 泰平

新プラトンの「流出説」の一問題

神山 西郎

オストラキスモスの時代的考察

森岡敬一郎

西洋史學 III

古代エジプトの個人的一断面

— 第三王朝の性格 — 岡島誠太郎

十八世紀フランスにおける天才論の性格

小林榮三郎

— 市民層との關係を中心として —

第一次大戦にいたるイギリスの海外投資について(下)

市川承八郎

第二次世界戦争前後のドイツ史學界

中山 治一

一八四八年革命の百年記念とフランス史學界

前川貞次郎

IV

ジャンヌ・ダルクの裁判について

高山 一彦

Rectitudines Singularum

Personarum 雜考 田中 正義

— 中世的身分階級關係の

究明に寄せて —

ポツティチェルリの回心 會田 雄次

ふたつの重商主義―試論― 河野健二

史林 第三十二卷第二號

アリストテレス「ビュティア優勝者録

」とデルブホイの碑文 栗野頼之祐

一橋論叢 第二十一卷第三・四號

A・ファーガソンのみた歴史と人間の

自然的性格 鈴木 秀男

北米の宗教共産體 井藤 半彌

第二十二卷第一號

三浦新七先生とカール・ランブレヒト

村松恒一郎

ローマの軍制と支配體制 町田 實秀

アリストテレス以前に於けるプロネー

シス概念の展望 藤井 義夫

經濟論叢 第六十三卷第三・四號

英國に於る新組合主義の成立について

前川 嘉一

第六十四卷第一・二號

社會政策の理論と「階級闘争」 岸本英太郎

經濟學雜誌 第二十卷第一・二號

ヴィクトリア朝文學と社會的様相

著書論 文目録

矢本 貞幹

經濟評論 二四年七月號

イギリス労働黨經濟政策の動向

木村 健康

八月號

「近代經濟學」誕生の歴史的背景

上杉正一郎

九月號

社會科學者としてのマックス・ウェー

バー

青山 秀夫

經濟學研究 三

イギリス莊園制度に關する「古典的理

論」崩壞の意味 矢口孝次郎

重商主義解釋の問題 河野 健二

哲學研究 第三十三卷第一冊

危機神學の生成とその展開 樋口和一

―近代前期フランス精神史論―

―「大學の理念」の史的展開(四)―

宗敎改革期のドイツの大學 森 昭

第三十三卷第二冊

樋口 和一

歴史哲學の問題 大西 友大

理想 第百九十一號

文化革命とプロレタリア道徳

廣島 定吉

第百九十四號

中世哲學における自由概念 高桑純夫

第百九十五號及び第百九十六號

近代的自由の系譜 高坂 正顯

第百九十七號

現代の自由 金子 武藏

思想 二九六號

民族問題の理論的基礎 平野義太郎

二九七號

近代力學の形成(上)―惰性律を中心

として― 近藤 洋逸

二九八號

近代力學の形成(下) 近藤 洋逸

三〇一號

マックス・ウェーバーに於ける國民主

義と自由主義(上) 青山 秀夫

三〇二號

西洋封建法の基本的性格 世良晃四郎  
西洋における封建制と國家 堀米庸三  
英國封建制の崩壞 小松 芳喬  
三〇四號

マックス・ウェーバーに於ける國民主義と自由主義(中) 青山 秀夫  
二月革命 村上 五郎  
三〇五號

マックス・ウェーバーに於ける國民主義と自由主義(下) 青山 秀夫  
サンス 第六册 前川貞次郎  
デカルトと歴史 串田 孫一

デカルトの系圖  
デカルト思想の神祕主義的要素 森 有正  
十七世紀フランス哲學思想の潮流 川口 篤

第七册  
フランス哲學思想の潮流 川口 篤  
立命館文學 68

フルダ寺領庄園寄進文書について(一) 舟越 康壽  
法學協會雜誌 第六十七卷二號

ザクセンシュエーゲルとそれの紛解寫本 (三完) 久保正 暢

東洋史關係【著書】

蔣介石と毛澤東 渡邊茂雄著(B6・二  
三九頁、講談社、一三〇圓)  
古代國家 津田左右吉他七名著(A5・  
二九七頁、啓新社、三六〇圓)  
儒教倫理の基本問題 内野熊一郎著(B  
6判一五二頁、清水書院、五〇圓)

基礎社會 岡田謙著(A5・一八五頁、  
弘文堂、二〇〇圓)  
支那學研究法 武内義雄著(A5・二一  
八頁、岩波書店、二三〇圓)

毛澤東 林華城著(B6・一七〇頁、民  
主評論社、一二〇圓)  
アジアの政治と經濟 世界問題研究所編  
(B6・三一〇頁、社會書房、二〇〇  
圓)

躍動する新中國 平等文成著(B6・一  
三〇頁、經濟社、八〇圓)

中國共產主義の戰略と戰術 米國下院外  
交委員會編時事通信社譯(B6・二一五

頁、時事通信社、一四〇圓)

毛澤東傳 新中國研究會編(B6・二四  
〇頁、北書房、一五〇圓)  
中國族産制度攷 清水盛光著(A5・二  
一九頁、岩波書店、二六〇圓)

任那興亡史 末松保和著(B6・二七二  
頁、大八洲出版、二五〇圓)  
中國に於ける近代思想の挫折 島田慶次  
著(A5・三二一頁、筑摩書房、三四  
〇圓)

近代中國革命思想 中國文化研究會編  
(A5・二四一頁、窗書院、二五〇圓)  
三民主義と現代中國(岩波新書) 岩村三  
千夫著(一四六頁、岩波書店八五圓)

清朝基督教の研究 佐伯好郎著(A5・  
六七四頁、春秋社、七〇〇圓)  
中國學生運動史 岩村三千夫著(B6・  
一九八頁、世界評論社、一五〇圓)

支那史學史 内藤虎次郎(A6・六五六  
頁、弘文堂、七〇〇圓)  
漢代史研究 録田重雄著(A5・三二二  
頁、川田書房、三二〇圓)

アジアの民族運動 世界經濟研究所編(

B 6・二九四頁、白揚社、二〇〇〇圓)

中國共產黨史 中西功著(B 6・二七一頁、白都社、一七〇〇圓)

東洋文化の問題 京大支那哲學史研究會編(A 5・三一〇頁、甲文社、三二〇〇圓)

中國勞働運動史上卷 塩岡幸四郎著(A 5・二四〇頁、白揚社、二七〇〇圓)

契形文字法の研究 原田慶吉著(A 5・四〇三頁、弘文堂、五五〇圓)

中國革命 トロッキヤ著山西英一譯(B 6・三六六頁、中央公論社二二〇〇圓)

日宋金貨幣交流史 曾我部靜雄著(A 5・二〇六頁、寶文館、二五〇〇圓)

新講東洋史 和島芳男著(A 5・三五二頁同文館、三五〇圓)

中國における民主主義革命 平野義太郎著(A 5・二三頁、中央公論社、二二〇〇圓)

中國經濟の社會態制 村松祐次著(B 6・四〇〇頁、東洋經濟新報社、三〇〇〇圓)

中國上代思想の研究 栗田直躬著(A 5

・三三〇頁、岩波書店、四六〇圓)

【雜誌論文】

大谷學報 第二十八卷二號

南傳佛教の一樣相 佐々木教悟

經濟學雜誌 第二卷一・二號

モジョバイト王國とジャワ統治政策 別技 篤彦

プナルア家族の想定に關する疑義 山根徳太郎

研究と資料 第二十五號 山名 正孝

東洋的社會の構造 史淵 第四十輯

樂浪文化と日本の黎明―日本上代史の再検討 重松 俊章

佛舍利相承系圖と日宋交通との連關 森 克巳

宋代稻作貸給種及布種畝額考 日野開三郎

史學雜誌第五十七編五號至五十八編三號 駒井 和愛

曲阜と易水 明代に於ける木綿の普及について、西嶋 定生

新羅三代考 末松 保和

漢代の土地所有制―特に名田と占田について 西嶋 定生

墨子の非命說 板野 長八

乾隆朝の西域調査とその成果―特に西域同文志について― 榎 一雄

史潮 第四十二號 清水 泰次

明代田稅の研究、西突厥起源考 伊瀬仙太郎

社會構成史大系 第一、二、三、四 平瀬巳之吉

官人支配と國家的土地所有 清水 盛光

中國の鄉村統治と村落 重澤 俊郎

古代諸思潮の成立と展開 中國研究 第六號

中國インフレーションの基本的性格 清邊 長雄

中國のあたらしい農村分化 烏田政雄

朝鮮の大家族制と同族部落 善生永助

潮流 第四卷三號 野坂 參三

中國革命の世界史的意義 平野義太郎

連合政權の基本的性格 岩村三千夫



民族産業發展の社會的基礎尾崎庄太郎  
土地改革と農業生産力の發展

中西 功  
芝 寛  
民族解放の推進力  
展望 第三十八號

孫文から毛澤東へ  
岩村三千夫  
天理大學學報 第一卷第一號

朝鮮文化と近世文化史 齋藤 辰雄  
臺灣におけるオランダ人の探金事業―  
十七世紀臺灣の一研究― 中村 孝志

東洋學報 第三十二卷二號  
支那の民間信仰における鬼神  
津田左右吉

元代南滿洲に於ける交通路について  
園田 一龜  
竹書紀年について 橋本 増吉

明代における漕運軍士の就役狀態  
星 斌夫

東洋文化研究 第十、十一號  
中國の工業化問題 橋本 秀一

日本に於ける華僑社會の成立―公所團體の成立過程について― 内田 直作

舊中國國家の特質論への反省

松本 善海  
辻 直四郎  
釜山開港を繞る若干の論議 秋保一郎  
ビブリア 第一輯

江蘇の「四譯僧考」とドヴェリアの「  
四譯僧史」 石田幹之助

「李贄百詠」雜考 神田喜一郎  
日本史研究 第十號

中國社會研究の二つの立場 北村敬直  
一橋論叢 第二十二卷一、二號

娑摩羅什考 上原 專祿  
上海錢業ギルド 根岸 倍

鑛城縣と寺北柴村―中國の縣と村―  
村松 祐次

シナの考へ方 熊野 正平  
中國に於ける商業秩序の基礎 内田 直作

文化 第二號  
北游以前の顧炎武 阿崎 文夫

立命館文學 第六十八號  
王士思想の考察 平中 萃次

滿洲の地理的性格 山口平四郎

龍谷史壇 第三十一號

謝自然の事 石濱純太郎  
奠定證の佛教學 小川 貫次  
龍谷大學論集 第三百三十六號

中國近世に於ける佛敎結社の問題 小笠原宣秀

歷史學 第一輯  
古代西藏文化の一考察 佐藤 長

歷史學研究 第三百三十八至四百四十號  
抗日民族統一戰線の形成過程  
オカモト・サブロウ

華北村落における協同關係の歴史的性  
格 旗山 巍

明末清初における地主について 北村 敬直

地理學關係【著書】

人文地理學說史 飯塚浩二著(日本評論社A5・二三頁 二〇〇圓)

地理學の本質と原理 田中啓爾著(古今書院A5・四一〇頁 四〇〇圓)

人文地理學概説(上) 織田武雄、辻田右左男、藤岡謙二郎共著(蘭書房、A5

・二七五頁 二八〇圓)

人文地理の新研究 別技篤彦著(旺文社、

A5・二〇〇頁)

新しい世界と日本 第一巻、第二巻、第

六巻 石田龍次郎編(毎日新聞社、A

5・二〇〇頁)

聚落の歴史地理 米倉二郎著(帝國書院

B6・一八〇頁)

アメリカ國土論 室賀信夫著(三明社、

B6・一三〇頁)

社會科事典 第一巻―第十巻(平凡社、

A5・五〇〇頁)

世界經濟(圖表と統計による分析)有澤

廣巳、村山節共著(東洋書館、A5・

三六三頁三八〇頁)

人間史論(I―IV)ヘルデル、鼓常良譯

(白水社、B6・一五〇頁―二三〇頁)

水族生態學概論 相川廣秋著(東洋書館

A5・二二七頁、)

【雜誌論文】

人文地理 第三號

米國の自然環境と農業 山崎 禎一

都市村落研究法としての社會學的調査

著書論文目錄

について

大都市の調査集荷

作物と雜草

エクメネー

古地圖にあらわれた北大西洋の性格

水津 一朗

袖倉島の自然と人文

金崎 肇

地中海式農業 藪内 芳彦

昭和二十二年市郡別人口密度並に増減

表(一) 今村新太郎

地理學評論 第二十二卷一號

明細帳等より見た川崎、神奈川保土谷

宿 浅香 幸雄

東南アジアにおけるアランアランの研

究 能 登志雄

南僻平頂客上の土地利用 仲松 彌秀

地理學評論 第二十二卷第二號

綜觀氣候學の研究(1)―季節の移り

かわりについて― 矢澤 大二

沼田盆地における湖水の形成について

町田 貞

鉢子附近の被壓地下水 山本 莊毅

明細帳等より見た横濱川崎附近の農山

村 浅香 幸雄

地理學評論 第二十二卷第三・四・五合

併號

房總南部の乳牛集團地域の調査―現代

酪農論批判― 菊池 利夫

吾妻安達太郎火山の居住上限

安田 初雄

ダウリヤ山地の斜面形 千葉 徳爾

立命館文學 第六十八號

北極圏文化の地理的性格 藤阿謙二郎

滿洲の地理的性格 山口平四郎

立命館文學 第六十九號

瀬戸内海に於ける觀光資源の特異性

小野 忠熙

立命館文學 第七十、七十一、七十二號

城下町と近畿の市町村 藤阿謙二郎

滿洲とその海洋門戸 山口平四郎

日本に於ける散居集落の特質

―第一報― 谷岡 武雄

日本史研究 第十號

江戸時代における利根川の洪水 河野 通博

日本史研究 第十一號

日本史研究 第十一號

用水組織の管理統制機構と機能

喜多村俊夫

新地理 第三卷第一號

地域的分業と地域的秩序について

小栗 宏

集團と環境

―食物連鎖の問題― 飯塚 浩二

九十九里浦納屋集落の成立―地曳網罟

漁業入會地濱其他の開發拒否―

菊地 利夫

皇極齊明紀の地名と人物 田村榮太郎

新地理 第三卷・第二・三號

九十九里濱における農業と水産業との

關係―宿村名寄帳の研究― 内田寛一

資本主義發達史における畜産と農民經

済の交渉 宮坂 梧郎

日本の森林資源の荒廢 中野 尊正

高冷地の開拓 上野 福男

農村社會の地理 ―農民と農具との地

社會學的考察― 佐々木清治

動植物及び農作物の分布と氣候 作間 慶三

農業地理より見たる本邦の畜産

河原田次雄

中央線沿線の蔬菜地域について―小金

井町を中心として―

新地理 第三卷第四號

日本氣候の特色とその影響福井英一郎

單位集落の比較研究 ―居住面積によ

る一例― 西川 治

國際的紛争境界帶 ダンカン・ホール

(The International Frontier)

岩田孝三(譯)

鳥海山嶺境の地理學的意義佐藤甚次郎

新地理 第三卷第五號

地理學徒の活動と資料の整備について

西水 孜郎

社會科の場としての郷土の構造分析

小田内通敏

地域的にみた人口現象の變動

上田 正夫

米國の北東部(U・S・I・Sより)

小栗 宏

ホール教授のプロファイル 金崎 肇

新地理 第三卷第六號

貿易の可能地域 田中 啓爾

滿洲における民族複合現象の一例

―瀋洲屯とオランハルガノ―小堀 巖

社會科教授の反省 小栗 宏

牛馬の勞役慣行 宮本 常一

富山灣沿川近海汀線の後退について

石井逸太郎・金川 義松

舊輕井澤夏季商店調査について

泉崎 時子

社會地理 第十號

理論的研究と實證的研究 平野義太郎

日本農業の地域的構造 除野 信道

山家の生活 淺井 治平

北海道の中標津村 渡邊 操

地盤變動にともなう被害 小笠原義勝

社會地理 第十一號

大都市周辺の條里の村 渡邊 久雄

伊丹市及びその附近の農村と山村の保

健地理 ―實態調査― 垣内 秀雄

庄内磯濱の漁村 長井政太郎

社會地理 第十三號

ジャワにおける土地利用の展開―文化

圈の交流を中心として― 別技 篤彦

都市成長の力と市街の形態―東京本郷

の復興に關連して―― 木内 信藏

ツナ河畔の村々 淺井 辰郎

十津川村 國分 安吉

社會地理 第十四號 陸中田茂山の調査覚え書 池田 雅美

社會地理 第十五號 東北地方の二つの農村社會山口彌一郎

日本におけるケツペンの氣候區 關口 武

北海道安平盆地の自然と文化景觀 森 壽美衛

社會地理 第十六號 大興安嶺東麓砂丘地帯の農牧部落の生

態――一九四四年當時の記録―― 入江 敏夫

加賀平野における集落の發達 宮下 藤吉

岐阜の民家――民家の地理學的研究―― 安藤萬壽男

蔬菜栽培の適地適作主義について 生野 眞直

灌漑用水の分配と用水權に關する歴史 喜多村俊夫

地理的研究叢書

安平盆地の住民入地と集落景觀（北海

道安平盆地の自然と文化景觀第二） 森 壽美衛

地學雜誌 第五十七卷第二號 洪水 安藤 岐一

關に當面する日本の水産業 田内森三郎

一九四〇―一九四五年のヨーロッパ地 木内 信藏

理學界 地學雜誌 第五十八卷第三號

地域研究と日本研究所 R・B・ホール 我が國の石油資源（一） 三土 知芳

日本の發電水力に關する一考想 山岡 包郎

東北地理 第一卷第二號 耕作家畜の地理學的研究 田邊健一

明代における江蘇省山陽の繁榮 佐々 久

仙臺市の移入市民の研究 芳賀 晟

宮城縣白石町の和紙と紙布について 佐藤忠太郎

岩手縣における本年の櫻の開花期の調 藏重一彦・越智文字

査

資源科學研究所彙報・第十一號 栗駒火山の毒水 入江敏男他二名

山西の製鐵遺跡と土法製鐵に就て 中島 壽雄

同 第十二號 高地の微細氣象――五台山の例――

遠州横須賀附近千瀉の地下水の諸性質 とその遠州灘地震による變化 淺井 辰郎

多田文男・入江敏夫・三井嘉都夫 武藏野台地地下水の水溫と水素イオン

濃度 故 吉村信吉・増澤讓太郎 遺跡遺物の電氣探查豫報

中島壽雄・岩津潤・中林一孝 同 第十三號

富士山南麓の地下水 三井嘉都夫 資源科學研究所員業績目錄一九四六―

四八年 考古學關係【著書】

朝鮮古文化綜鑑第二卷 梅原末治、藤田 亮策著（A・本文六八頁、圖版五〇

養徳社、一五〇〇圓）

エーゲ文明の研究 村田數之亮著 (A5

・三〇四頁、弘文堂、三三〇圓)

飛天の藝術 長廣敏雄著 (B5・一八九

頁朝日新聞社、四五〇圓)

古代人骨の研究に基く日本人種論 清野

謙次著 (本文B5・六〇二頁、圖譜九

〇枚、岩波書店、五〇〇〇圓)

法隆寺の研究史 村田治郎著 (A5・三

三二頁、毎日新聞社、三三〇圓)

【雜誌論文】

考古學集刊 第二冊

百濟觀音考

黄泉戸喫

豊中市大字椋塚發見の銅鐸

伊豫阿方遺跡、片山遺跡調査概報

町田 甲一  
小林 行雄  
藤澤一夫  
杉原 莊介

下總國園生貝塚出土の装身具

福嶋飯塚町發見の猪形動物土偶

松永 千里  
江坂 輝彌

人類學雜誌 六十ノ三

古墳から發掘せられた土製の索餅類似

品 清野 謙次

備後宮ノ尾發見異例石棺とその人骨

所謂「ニッポナントロブス」の産出地

層に就て 高井冬二、棚井敏雄

細紋 第三輯

山形縣内の石製遺品 長井政太郎

富山縣上市川を中心とする厚手式土器

の一考察 森 秀雄

山形縣石器時代産業 田原 眞稔

粗製石器に關して 菅井 進

福島縣川前村の先史遺跡 榎本 忠孝

民族學研究叢刊第一集 現代アメリカの

社會人類學 現代アメリカ人類學の諸傾向

佛敎藝術 3 ハーバートバシ

法隆寺金堂壁畫の研究 小林太市郎

法隆寺金堂壁畫の構成 佐和 隆研

法隆寺昭和修理によつて見出された新

事實 浅野 清

同 4

飛鳥白鳳の佛系譜 水野 清一

法隆寺夢殿復原考

法隆寺の尺度問題

ミイランの壁畫と法隆寺

日本考古學 一ノ四

常陸國安食平貝塚

安藝に於ける繩文遺跡

吹田市圓山石器時代遺跡調査概報

同 一ノ五

茨城縣大串貝塚調査報告

美術研究 十六ノ二

慶陵の壁畫 上

浅野 清

村田 治郎

熊谷 宣夫

酒詰 仲男

池田 次郎

谷 彰一

酒詰 仲男

田村 實造

田村 實造

田村 實造

京大史学科講義題目

昭和廿四年度

國史

講義	國史總論	柴田助教
研究	産業史の研究	小葉田教授
同	民族信仰の歴史的發展	柴田助教
同	愚答抄の研究	赤松 講師
同	莊園を中心とした 社會經濟史の諸問題	西岡 講師
演習	日本近世史の諸問題	柴田助教
同	日本古代史の諸問題	三品 講師

東洋史

講義	東洋史概説(第一部 隋・唐・宋時代)	那波 教授
同	東洋史概説(第二部 古代—南北朝)	田村 教授
研究	中國胥吏の研究	那波 教授
同	雍正帝と其の時代	宮崎 教授
同	東方史上に於ける民 族移動の問題	田村 教授

同	清代の顯法	佐伯助教
同	西域史序説	羽田 講師
同	魏晉の老莊思想	村上 講師
演習	敦煌發見唐宋時代文書の研究	那波 教授

中國經濟史料(元史食貨志)

同	中國農村社會の研究	宮崎 教授
同	西洋史概説	田村 教授

西洋史

講義	西洋史概説	井上 教授
研究	ギリシヤ精神史	原 教授
同	中世精神史の諸問題	井上 教授
同	フランス革命史の研究	前川 講師
演習	ルネサンスの研究	原 教授
同	ヨーロッパ成立期の研究	井上 教授
同	近世史の諸問題	豊田 講師

地理

講義	人文地理學	織田助教
同	自然地理學	松下 教授
研究	北米地誌	織田助教
同	河谷地形の研究	帷子 講師

同	景觀の變遷	藤岡 講師
同	農業地理學の諸問題	喜多村講師
演習	支那地理書の研究	宮崎 教授
同	地圖學及地理學實習	織田助教
同	日本地誌及地理學實習	吉田教官

考古學

講義	考古學概論	梅原 教授
研究	東亞考古學の諸問題	梅原 教授
同	隋唐考古學	水野 教授
演習	日本考古學の諸問題	梅原 教授
同	エーゲ文明關場器講評	村田 講師
實習	考古學實習	小林 教官
講義	史學研究法	原 教授

京大史学科卒業生並びに卒業論文題目

國史	昭和廿四年三月卒業	室町時代に於ける武家と禪宗安部 素正
同	中世末期に於ける村落結合—菅浦文書を 通じて	伊藤 隆宣

愚管抄の思想

井上 司

上代の庶民階級についての一考察

内川 順雅

切支丹宗教社會の一考察

小野三沙子

初期吉利支丹傳道の研究し特に町人階級を主とせるし

明治時代に於ける社會問題としての労働運動に就て

大西 清文

日本上代の地方政治に關する一考察し五

十戸一里の制度を中心としてし門脇禎二

近世儒學の近代的意思

金子 欣哉

若衆集團變遷過程の民俗學的考察し組織形態を主としてし

河合 正通

陰陽道を通して見たる平安時代の精神生活

河手 龍海

入元僧と宋元文化の移入

木宮 榮彦

中世期に於ける甲賀郷土の問題し土豪山中氏の勢力を中心にしてし

木村禪奈子

古代に於ける天皇統治の成立とその發展について

久堀 幸夫

彌然期江戸歌舞伎の性格し特に江戸市民社會との關係に於いて見たるし

黒上正八郎

近世の農村社會

五島 英光

我上代に於ける佛教受容の一考察し特に社會史的觀點より見たる庶民の信仰に就いて

小松 八郎

江戸時代に於ける町人社會の考察

近藤 鏡二

上代鑄物師の一形態し特に河内國丹治氏を中心としてし

佐藤 直市

奈良朝佛教の社會救濟事業し特に行基の場合に就てし

鶴仲 樹

陰陽道受容の史的研究

杉山 耕造

徳川吉宗の政治に就いて

宅間 博

平賀源内研究

富本 武一

法隆寺金堂壁畫阿彌陀淨土變相の成立

鍋田 一

日本封建社會史研究のための覺書

服部謙太郎

日本上代の相續

東 晶

近世初期の茶湯について

久田 和彦

中世寺院社會に於ける支配形態の變遷

平岡 定

日本上代社會組織に於ける血縁性の問題

箕浦 亨

切支丹宗教運動

安田 邦彦

幕末外交史の一考察

山口 光朝

藝能(田樂・猿樂)とその座についての一考察

山下 哲則

江戸時代中期以降に於ける西洋文化の受容に就て

山本 四郎

供御人に關する一考察

渡部 康彦

昭和廿四年九月卒業

近世初頭に於ける排佛思想の一考察

芦田 道

明治前期政府の弊制施策

木阪 登

江戸時代市民藝術に關する一考察し歌舞伎を中心としてし

富川 彌誠

江戸時代中後期町人社會

中西 興

北攝に於ける攝關領の崩壊と多田莊の成立過程に就いて

根津 哲夫

東洋史

昭和廿四年三月卒業

漢帝國の封建諸侯

伊藤 道治

帝國主義と其の中國に於ける一様相

井上 長世

清聖祖の好學事績と文化政策

澁谷晴美

明末李自成の暴動について

竹下 肥満

銓法を通じて見たる明代中葉の官場

谷 光隆

〃關東十三行〃

松井甲子郎

中國古代に於ける抑商主義とその歴史的意義

市原 純郎

元朝驛傳路考

井ノ崎隆興

太平天國革命―農民暴動說に關する批判を主として―

植野 珪

### 西洋史

昭和廿四年三月卒業

デヴィッド・ヒュームの歴史的思惟

太田 敏明

フランスの農村工業

合田 裕作

十九世紀ロシア社會思想の一考察―エヌ・ゲー・チエルヌイシエフスキ―

中村 政二

ジェファソニアン・デモクラシイの成立

樋口 謹一

彙報

英國々會の成立に就いて

長尾 源藏

英國に於ける宗教と政治―特にエリザベス時代に就いて―

瀨川 清

社會革命としてのアメリカ革命

山岸 義夫

英國に於ける近代新聞の發生

菊池惠一

ドイツに於ける民主主義政治の動向―共和制の成立過程―

阿部 健彦

英國封建社會崩壞過程としての黒死病の流行と勞働者條令

石田 明

エラスムスとその時代

遠矢 健

古代世界及びその衰退に關する經濟的諸見解

淺香 正

英國清教主義運動におけるビルグリムの地位と其の意義

福田 高藤

十六世紀に於ける英國の宗教改革について

正木 眞澄

十九世紀末英國勞働運動に關する一考察

大澤 基

十九世紀後半に於けるアメリカ新聞の發展

阿部 廉

「門戸開放宣言」當時の米國經濟の動向

山本 幹雄

アメリカ産業革命と木綿工業

伊藤 知

昭和廿四年九月卒業

「ギルド」から「工場」へ

森 誠一

中世初期論

林 炳熾

アメリカ民主主義成立の文化史的背景序説

佐々木忠一

### 地理

昭和廿四年三月卒業

印旛沼落掘筋考

君塚 進

琵琶湖津の發生ならびに變遷に關する交通地理學的研究

木村 宏

神戸港の貿易とその背域

木村洋之助

近世相模野の開發―特に集落發生を中心として―

田邊賢一郎

最盛期に於ける丹後織物―主として丹後縮緬の地理學的研究―

中山 修一

石見半紙

富川 義閑

農村社會進化の地理學的基礎―河内平野に於ける農村の場合―

池浦 正春

廣島縣因ノ島の人文地理學的考察

平川 高義

一三五



昭和廿四年九月卒業

米國の鐵鋼業について―特にその立地要  
素の問題―  
木地 節郎

考古學

昭和廿四年三月卒業

日本國家生成論  
橋崎 彰一  
日本石器時代終末期の様相について  
近藤 義郎

近世に於ける中國古鏡鑑研究の史的考察  
土井 次生

學會消息

史學研究會

例會 二月十八日於京都大學文學部史

學科演習室

「清代社會の一面」

里井彦七郎氏

「直弧紋放」

小林 行雄氏

五月十五日

於奈良女子大學

「ギリシャの史跡」

村田敷之亮氏

東大寺戒壇院に於て東大寺關係の文書

を見學す。

十一月一日 於京都大學文學部第

八教室

「清代の地主」

北村 敬直氏

「フランス革命とキリスト教」

豊田 堯氏

大會 十一月十二・十三の兩月左の如

く行われた。

公開講演(十二日十三時より)

於京都大學文學部第一教室

「プロイセンの改革とフランス革命」

東京大學助教授 林 健太郎氏

「唐代の鄴保機構を論ず」

京都大學教授 那波 利貞氏

見學(十三日十時より十五時まで)

於洛西仁和寺靈寶館 寺寶展觀

列品解説 京都大學講師赤松俊秀氏

兩日とも雨天を冒して多数の來會者があ

り學界の安定と復興を反映するものがあ

つた。

京大國史關係

國史學會大會

六月五日(日)午前十時より京大文學

部第一教室において本年度大會を開き

左の研究發表があつた。

近世封建農村の一問題 岩井 志熊氏

近代的思惟形成に關する一考察

村尾 一夫氏

神話傳説よりみた出雲

梶原 和夫氏

古代村落と郷里制

岸 俊男氏

平戸イギリス商館失敗の事情

富永 保男氏

近世庶民文藝における心中と殺人

梅原 隆章氏

日本獨占資本主義社會形成の文明史的考

察 石澤 澈氏

中産階級の發達に就て

大石 良材氏

七世父母

竹田 聰洲氏

常陸台渡慶寺出土の文字瓦について

高井悌三郎氏

讀史會大會

十一月十三日(日)午前十時より仁和

寺において開催、史學研究會主催の仁

和寺靈寶館における特別展觀をも見學

した。

山片蟠桃について

末中 哲夫氏

中世末期の村落結合

松山 宏氏

最近美術史學の一傾向について

中村 二柄氏

中盛彬のかりそめのひとりごと

酒井 忠雄氏  
玉田 義美氏

神本神述説

田中 勝蔵氏

古代に於ける神の觀念

今中 寛司氏  
時野谷 勝氏

惺窩學の成立について

明治教育史について

讀史會見學旅行

五月十九日(木) 柴田助教教授指導の下

に學生等十二名參加し、多武峯飛鳥方面

(聖林寺・談山神社・石舞台・阿寺・橘

寺・川原寺)の見學を行つた。

十一月五日(土)―七日(月) 秋季見

學旅行として美濃尾張地方に赴いた。參

加者柴田助教以下約二十名。第一日は

先ず岐阜大學にて所藏近世史料を披見、

輪中及び美濃條里制等について説明を受

け、織田信長の廟所崇福寺に立寄り、そ

の夜は裸祭りに有名な國府宮尾張大國靈

神社に一泊。第二日は清洲城址をはじめ

甚目寺、津島神社、津島神宮寺等を訪れ、

それぞれ所藏の文書什寶等を見學。有志  
は更に岐阜大學に一泊し、翌日正倉院文  
書美濃國戶籍半布里的推定地、賀茂郡富  
田村羽生に至り、古代村落とその地理的  
景觀との關係等につき實地踏査した。

民俗學會例會

六月二十五日(日) 於京大史學科陳列館

動物の婚姻形態 今西 錦司氏

近江の祭 宮川 滿氏

十月十五日(土) 於同所

兩丹地方の株講 竹田 聰洲氏

京大東洋史關係

東洋史談話會

例會 二月三日 於京都大學文學部史

學科演習室

「東方史の構造類型」―古代の場合―

佐藤 長氏

五月十八日 於右演習室

「草學誠の史學」 三田村泰助氏

六月十五日 於右演習室

「史料としての清代の地誌に就て」

田中 克巳氏

十月四日 於右演習室

「中國の綿業について」 天野元之助氏

大會 十月二十三日 於人文科學研究

所講堂

「開會の辭」 宮崎 市定氏

「中世支那の農業政策に關する一考察」

西村 元祐氏

「笈多朝印度及び薩珊朝波斯の絹織手工

業者」 佐藤圭四郎氏

「明初の儒學―特に吳康齋について―」

島田 慶次氏

「科學と西洋學術」 荒木 敏一氏

「宋代に於ける莊園の經營樣式」

周藤 吉之氏

「キリスト紀元前後に於ける中國南部フ

ロンチア」 宇都宮清吉氏

「唐均田制と租粟二石」 日野開三郎氏

「ウィットフォーゲル『征服王朝理論』に

就て」 田村 實造氏

「閉會の聲」 那波 利貞氏

東洋史研究會例會 二月二十五日

於京都大學文學部史學科貴賓室

「中共の土地政策」 天野元之助氏

八月三十日 於右貴賓室

「近世史の諸問題」 佐伯助教授及

び北山康夫氏を圍んで座談會を行つた。

東洋史學の體系樹立への要望は、時代區分の問題と絡み合つて、近世社會究明に目標が向けられた觀がある。

京大西洋學關係

讀書會大會

讀書會大會も回を重ねて、こゝに十七回。十一月三日午前九時より文學部第八教室に於て開催。先ず原教授の挨拶があり、つづいて左の研究發表があつた。

一、ギリシヤ科學成立の歴史的背景

栗林 健氏

一、ギリシヤ精神史の一考察

吉原 好人氏

一、シュメール語に残る母系社會の遺制

中原與茂九郎氏

一、ロシア古代史の諸問題

河村盛一氏

一、中世ラテン語の問題

兼岩 正夫氏

一、ルッターの國家觀 山口 丹海氏

一、ルッターの社會的基礎 富本健輔氏

一、近世政治思想の一問題 江坂長四郎氏

一、ローマン主義と民族學說について

秋山 博愛氏

一、表現主義の精神

西山 勤二氏

一、ビスマルクと自由主義 廣實源太郎氏

一、三帝結盟と東方問題 安藤 俊雄氏

最後に井上教授の挨拶を以て、午後五時終了。來聽者約二百名。尙それより文學部會議室にて茶話會に移り、同學、先輩の士多數の出席を得た。

京大地理學關係

地理學談話會例會

二月例會(二月十二日地理學實習室)

三月例會及豫饒會(三月十三日。地理學實習室)

以上いずれも卒業生の論文發表。

四月例會(四月二十九日。詩仙堂) 藤田元春、村松繁樹兩先輩及新入生歡迎會。

六月例會(六月七日。地理學實習室)

五大湖沿岸の工業

木地 節郎

山の神の俗信について

石川 榮吉

農村人口より見たる農業經營の性格(六郷村實態調査)

細井 淳一

西スーダンの國家について

岩田 慶治

アイヘンミッシュェヴァルド理論について

水津 一郎

示我周行

河野 通博

九月例會及豫饒會(九月二十四日、地理學實習室)

卒論發表

木地 節郎

四川省の河川交通

海野 一隆

エンブリ氏「須惠村」について

辻田右左男

十月例會(十一月一日地理學實習室)

高知縣西北部山村の燒畑

由比濱省吾

地中海の灌溉

松田 信

人文地理學會

機關誌人文地理は第3號を七月に刊行、第4號は十一月刊行豫定。なお七月二十一日より二十七日まで夏季講習會を開き、十一月十六日日本年度大會を開く豫定。

京大考古學關係

○京都府乙訓郡大枝村妙見山古墳前方部調査

七月二十七日より八月三日まで小林助手以下教室員が妙見山古墳前方部の粘土槨の調査をした。該墳は竹林中にある爲毎年土取作業で封土が破壊されて内部構造があらわれたので既に半分は削り取られて了つていたが、大體の構造は推定することが出来た。即ち一般古式古墳の粘土槨に通有な形をなしているが、その槨の周圍に栗石を充めた排水溝を繞らしていたのが珍らしく、遺物としては三角縁神獸鏡一面が残つていた丈であつた。

○伊賀國名賀郡比叡村石山古墳調査  
前年に引續いて石山古墳後圓頂部の墳輪配置の調査が八月五日より二五日まで小林助手及び教室員の手で行われた。最外方には圓筒列が圓形に繞り、その内側には方形の圓筒列があり、更にその内方には楕形、甲形等の器材墳輪が、やはり方

形に並べられていたことが明かにされた。この中方形に配列された圓筒中には蓋形墳輪を上にかぶせたものがあり、又圓筒の蓋の上に附けられたかと思われる小さな鶏形墳輪や、前年出土した斗栱を印した墳輪片も見出された。

○大阪村中河郡大戸村石切大戸古墳調査

九月三十日より十月の中頃までの間に十日ばかりを要して表記古墳の調査を坪井、橋崎、川端等の教室員が行つた。大軌線石切驛から北に向つて下る傾斜地に營まれた西向き古墳で、封土はなく石室の天井石も一個を残すのみで、石室内面が露出していた。即ち片袖式の竪穴式石室を留めていた。即ち片袖式の竪穴式石室で玄室内に二個の須製築式棺があり、その棺の内外合せて十一體の人骨が埋葬され副等品としては祝部土器、鏡器、金環、玉類、刀劍等が數えられたが、何回もの埋葬が行われた事實を示すものとして注目される。尙ほ、人骨中にはオハグロを

施した齒が含まれていた。

一、考古學教室談話會

永い間御病臥中であつた、梅原教授の御全快と、今夏台湾から引揚げられた元台北帝大の人類學教授金關丈夫博士の歡迎を兼ねての談話會が十月十日午後三時から花谷會館にて開催された。梅原教授の御挨拶の後、金關博士の台湾の土産話は最近のニュースとして面白く、特に李濟博士以下、中國歴史語言研究所の學者達の近況を知ることが出来た。

考古學協會總會

十月二十九、三十の兩日にわたり、日本考古學協會第四回總會並びに公開講演會が初めて京都で行われた。第一日は北白川小倉町の人文科學研究所講堂に於て午前總會午後研究發表會があつた。

墳輪竈跡の研究 尾崎喜左雄氏  
茨城縣鏡塚の發掘 大場 龍雄氏  
台灣先史考古學に於ける新發見 金關 丈夫氏

菊名貝塚の土器について 桑山 龍進氏  
伊賀石山古墳調査豫報 小林 行雄氏  
横穴式石室の構築方法について

末永 雅雄氏  
杉原 莊介氏  
上野岩宿遺跡調査豫報  
繩文式文化終末期の情勢 山内 清男氏  
北九州に於ける二三の新発見

森 貞次郎氏  
第二日は午前中、梅原教授の解説で住友家中國古銅器の見學、午後は文學部第七教室で後記の公開講演を行い、東北から九州にわたる全國各地の考古學者が集り甚だ盛會であつた。

公開講演  
中國の石佛 水野 清一氏  
登呂の遺跡 後藤 守一氏

考古學教室友の會

戰爭中に物故せられたベトリ、スタイン、エバンス、ホブソン、ベンドルベリ一等先學の學徳を追慕する事をかねて、日頃教室員が御世話になつてゐる方々への感謝の意を表する第三回「友の會」を

十一月十三日(日曜)開催した。當日は雨にも拘らず濱田先生末亡人を始め五十名近い御來會者があり、午前中は文學部陳列館で茶菓をかこんでの歡談。午後は人文科學研究所講堂にて左の講演を聞き盛會裡に散會した。

諸先學の追憶 梅原 末治  
一 スカイン卿と中央アジアの探検 岡崎 敬  
ベトリ先生の生涯とその業績 樋口 隆康

クレタ文明の發見者たち 村田敷之亮

大谷大學史學關係

國史學會

○桂方面史蹟踏査 六月二十七日、藤島助教引率、參加者柏原豫科教授、學生七名。西芳寺、松尾神社、長福寺を訪ねた。

○史學會例會 七月三日 於會議室。出席者三品教授、藤島助教、平山講師、柏原豫科教授、學生十三名。

一、滋賀縣豊村の帶祭 學三伊藤囃覽  
一、親鸞聖人在世時代の關東教團について 研究科山田 眞

一、近世史研究の方向 研究科松枝信義  
一、一向一揆の諸問題 研究科禿 信雄  
○一條寺修學院方面史蹟踏査 十月十日

藤島助教引率、參加者學生十名。詩仙堂、曼殊院、修學院離宮、林丘寺を訪ねた。

○長瀨方面史蹟踏査 十月二十二、三日、三品教授引率、學生十名、竹生島、長濱別院、彦根城、安土總見寺及び安土城址を訪ねた。

佛敎史學會

○論文發表會 二月二十五日 於研究室  
一、中世北越一揆的部分的考證 北西弘  
一、大和と眞宗 藤林 健彦  
一、薩摩藩と眞宗 山崎 良淳

出席者日下、名畑教授、藤島助教、細川副手、學生五名。引續き日下教授宅に於て卒業生送別會を行つた。  
○金澤方面史蹟踏査 五月六日、金澤市

專光寺着、七日午前、專光寺寶物拜觀、尾山御坊視察。午後同市廣濟寺所藏寶物拜觀、八時より金澤東別院に於て郷土史家との座談會を開き日下教授の「眞宗の本尊について」の講演あり。八日朝金澤發、二俣本泉寺着、寶物拜觀して同地一泊す。九日京都に歸齋す。

### 東洋史學會

○元史釋老傳論讀會 本年四月より毎週水曜日午後三時から、野上、中田助教授水谷講師、畑中助手、松見、藤芝、大屋諸氏によりその基礎的研究を行い、釋の部を終つて老の部を續行中である。

○東洋學關係佛典目錄の編纂 前年度より引續き、野上、中田助教授、神田、水谷講師指導の下に、これを編纂中であるが、既にその一部として、大屋氏擔當による「法顯傳」「西域記」「慈恩傳」の部は、大谷學報二九卷一號に發表された。引續き、「洛伽藍記」を畑中、「大唐西域求法高僧傳」を大屋、「宋僧契嵩著述考」を松見、「高僧傳」を藤芝の各氏によつて、

それぞれ繼續中で、何れも大谷學報に掲載されることになつてゐるが、此種目錄の性質上、脱漏、誤謬は免れ難く、何かと御注意を頂きたいと念願してゐる。

### 龍谷大學史學關係

○佛教史學會 五月十二日  
一、中世の佛教史觀

專門部講師、二葉織香氏

○東洋史例會 五月三十日  
一、中國文史學の構想

京都女子大學教授 橋川時雄氏

○國史例會 六月十二日

一、シナ文化の五山禪僧に及ぼした影響

花園大學教授 花須純道氏

一、庶民と歴史

文學部講師 魚澄惣五郎氏

○研究科例會 七月一日

一、江戸商人の成立と上方商人

家久和三郎氏

一、法隆寺金堂藥師佛像の銘文

津本 了學氏

○研究科例會 十月二十一日

一、中世初期における念佛思想批判の問  
題 里内 徹之氏

○東洋史例會 十月二十二日

一、Balthus の Paris 大玉碑につ  
て 文學部講師 石濱純太郎氏

一、甬道攷

大庭 脩氏

○史學大會 十一月十七日午後一時、講  
堂に於て

一、鎌倉時代新興佛教の藝術觀

大阪市立美術館長 望月信成氏

一、茶臼山古墳の調査とその考古學的特  
色 文學部講師 末永 雅雄氏

大正八年春以來本學講師として史學科  
の爲永年盡力せられた文學部講師魚澄惣  
五郎先生は本年選歴に達せられたので、  
右の如く大會を開き、會後本願寺飛雲閣  
にて祝賀茶話會を催し、來賓、卒業生多  
數參列した。

京大人文科學研究所關係

京大人文科學研究所に於ては次の如く  
部、班に分れて夫々、共同及び各班研究  
會を行つてゐる。

會を行つてゐる。

日本部 「日本の近代化」班  
「中國古典の校注と索引編纂」班

東方部

「資治通鑑唐紀の研究」班  
「東京夢華錄の譯註」班  
「佛教藝術の研究」班  
「中國技術史」班  
「雍正批批諭旨」班  
「中國慣行」班  
「ルソー研究」班

支那學會

例會 六月二十六日 於人文科學研究所講堂

「佛蘭と波斯錦」 佐藤圭四郎氏  
「宋代文學者の書論について」 中田勇次郎氏  
「孔子の思想について」 木村 英一氏  
「右方樂舞昆崙八仙放」 那波 利貞氏  
十月一日 於京都大學文學部第一教室  
「蒲留仙の生涯」 神田喜一郎氏  
「聊齋志異の浪漫性」 田中 克己氏  
「蒲留仙の遺稿について」 前野 直彬氏

平井雅尾氏藏聊齋志異關係資料を展覧大會 十一月六日 於人文科學研究所講堂

講演會

「開會の辭」 吉川幸次郎氏  
「六朝助辭の二三について」 高木正一氏  
「呂晚村と清初の禁書」 湯淺 幸孫氏  
「支那といふ名稱について」 青木正兒氏  
「王陽明の體験」 島田 虔次氏  
「揚州の盟商」 佐伯 富氏  
「開會の辭」 那波 利貞氏

東方學會京都支那關係

一、講演會

昭和廿四年五月七日午後一時より人文科學研究所本館講堂に於て  
安南の漢文學 大阪商大教授神田喜一郎  
中國の園藝作物について 京大教授 並川 功  
昭和廿四年七月二日午後一時より人文科學研究所本館講堂に於て  
マライ・ポリネシヤ語の一考察 京大教授 泉井久之助  
新出の景教教典について

京大名譽教授 羽田 亨  
昭和廿四年十月廿七日午後三時より人文科學研究所本館講堂に於て  
最近十二年間に於けるフランス科學の業績とアジア研究  
フランス文化使節ルネ・グルツセ博士

東方學術協會

夏妻講座「社會人類學講座」七月二十一日(木)―二十三日(土)、七月二十一日(木)―二十三日(土) 於京都毎日會館  
宗教の原始形態 龍大教授 棚瀬 襄爾  
體質と文化 京大教授 白井 二荷  
神話と祭儀 京大教授 森 鹿三  
未開社會の構造 天理大教授 姫岡 勤  
婚姻と家族 民俗學研究所員大間知篤三  
社會人類學の構想 九大教授 古野清人  
京都例會 於京大人文科學研究所  
三月三日(木)  
最近の北京 旗田 巍  
四月三十五日(月)  
外交回想 須磨彌吉郎  
五月十六日(月)

南米の現在と將來

六月二十三日(期)

津田 正夫

密輸入團物語

十月三十一日(月)

高橋 樺朗

中共の科學政策

阿部良之助

秋季大阪公開講演會

十月二十九日(土) 於大阪毎日日本社講

堂、自然史學會、世界史研究會との共同

主催、毎日新聞の後援で開催した。

遊牧社會の系譜

今西 錦司

二つの歴史觀

宮崎 市定

大阪例會 於大阪商船ビル三六一號室

三月二十四日(期)

中國人の宗教性

長尾 雅人

四月二十一日(期)

聖フランシスコ・サザイエル教内 清

十月二十日(木)

支那の石佛

水野 清一

◇昭和廿四年度會計報告

(昭和二十三年十一月一日  
昭和二十四年十月末日)

總收入

四六、九二九・〇二

内訳

前年度繰越金

一六、四八九・六二

文部省補助金

一〇、〇〇〇・〇〇

入會費

一九、七七五・四〇

雜收入

六六四・〇〇

總支出

二三、三〇四・四〇

内訳

大會費

五、九五〇・〇〇

例會費

二、三二二・〇〇

「史林」出版雜費

六、二八〇・〇〇

役員手當

三、五〇〇・〇〇

會務費

五、二六二・四〇

差引残高

二三、六二四・六二

以上

編輯後記

嚴密な考證に基いて得られた研究  
成果を出來るだけわかり易く  
叙述し、且つ我々の生活自体に強く結びつ  
けようとする等四か以て編輯が始めまし  
た。これがために、寄せられた論文をたゞ  
單に寄せ集めて掲載し國史、東洋史、西洋史  
地理學、考古學の各部門の間に何等統一的  
な聯關が見られない從來の編輯方針に對し  
て反省が加えられ、これが試みとして、本誌  
は主として近世史の諸問題を中心として編  
輯致しました。又學界展望の如き學界の、  
情勢を大観し得る面に力を注ぐと共に、地  
方會員諸氏との學問的なつながりを強める  
ために各地の支部に於ても、しばしば學術  
講演、討論會を開く外、地方會員諸氏の研究  
を「史林」に掲載しようように努力する積  
りであります。(佐藤記)